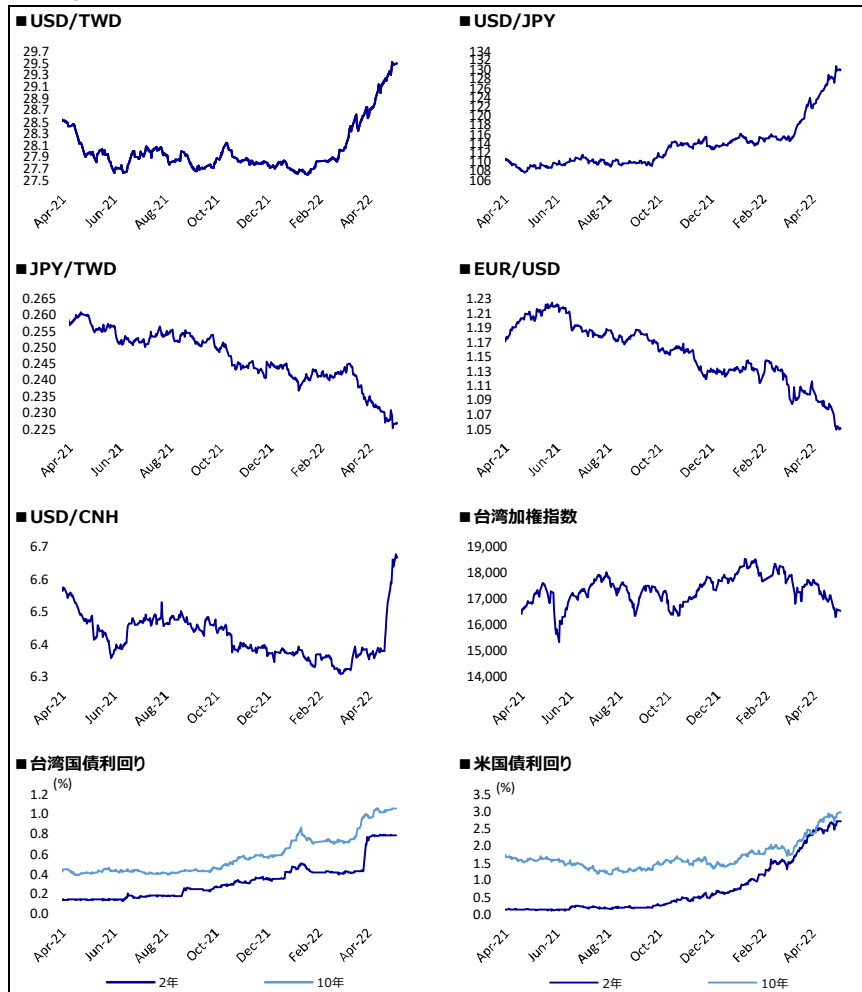


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇し、一時29.5台に。週初4/25は29.310でオープン後、台湾株が売られると29.37付近まで上昇したが、月末に近いことから輸出企業のドル売りも入り、上昇は続かなかった。4/26は外国人投資家から売り買いが双方向あったが、次第に台湾ドル買いが優勢となると29.253まで下落。しかし、輸入企業のドル買いも見られ、下値は限定的であった。4/27は台湾株が大幅下落すると29.4台にのせ、4/28には円や人民元等アジア通貨が売られると台湾ドルも売られ、ドル台湾ドルは29.5を突破し、約1年8か月ぶりに29.544まで上昇。4/29は台湾株が反発したこともあり、台湾ドルが買い戻されたが、FOMCを前に下値は限定的で、最終的に先週比0.8%ドル高台湾ドル安の29.480で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は870.4億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇し、約20年ぶりの水準に。週初4/25は128.51でオープン後、中国でゼロコロナ対策で上海だけでなく北京も都市封鎖されるとの見方から中国景気減速が懸念されると、リスクオフの流れからアジア株が軟調に推移。米金利も低下するとドル円は127円台半ばまで下落。4/26もリスクオフの流れから、一時127.03まで下落。4/27は本邦勢から大型連休を前に実需のドル買いが入り、128円台に上昇。また前日まで低下していた米金利が上昇したこともありドル円は128円台半ばまで戻した。4/28は日銀の金融政策決定会合で、緩和政策維持を決定、指値オペを毎営業日の実施を発表すると129円台後半に上昇。黒田日銀総裁の会見を前に130円台にのせ、会見で改めて緩和政策の継続が確認されると、ドル円は一時131.25まで上昇し、約20年ぶりの水準をつけた。4/29は日本が休日となる中、調整が入り、129円台後半まで戻した。その後は130円付近でもみ合ったものの、日本の大型連休を前に再度調整が入り、最終的に先週比1.1%ドル高円安の129.85で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.400-29.650
今週はFOMCを控えており、一旦は様子見とみられるが、米金利が意識されたドル買いが続くと見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：128.50-133.00
今週は日本が大型連休の中、FOMCを控えており、週前半は様子見相場が続くとみられる。FOMCでは、0.50%の利上げとQTが予想されている。どこまでタカ派な姿勢を示すかに注目が集まっており、インフレを抑え込む強い意志が示された場合は、ドル高が継続するであろう。

今週の予定

5/2 (MON)	米4月ISM製造業景気指数
5/3 (TUE)	日本休場
5/4 (WED)	日本休場、米4月ADP雇用統計、米3月貿易収支、FOMC
5/5 (THU)	日本休場、BOE
5/6 (FRI)	米4月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。